

世田谷版気候市民会議

第2回会議の開催報告

1.開催概要

当日は、第1回会議の成果を振り返り、専門家から家庭部門の脱炭素のお話を聞いたうえで、グループワークを行い、脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みを検討しました。

第3回会議では、今回整理した取り組みも踏まえ、脱炭素社会の実現に向けたロードマップを検討する予定です。

テーマ：暮らしの脱炭素化について考えよう！

日 時：2025年2月16日（日） 13:00～16:30

場 所：世田谷区立教育総合センター 研修室（たいよう）

参加者：34名



2.当日のプログラム

時刻	時間	プログラム
13:00～	5 分	開会
13:05～	10 分	【グループワーク】参加者同士の自己紹介と近況報告
13:15～	10 分	第 1 回会議の振り返り
13:25～	10 分	【講演】家庭部門の脱炭素 前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授
13:35～	5 分	質疑応答
13:40～	10 分	休憩
13:50～	5 分	グループワークの進め方
13:55～	65 分	【グループワーク】 脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討（前半）
15:00～	10 分	休憩
15:10～	15 分	中間講評、質問の受付と回答
15:25～	45 分	【グループワーク】 脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討（後半）
16:10～	5 分	グループワーク結果の共有
16:15～	5 分	まとめ 前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授
16:20～	5 分	政策提言のとりまとめまでの流れ
16:25～ 16:30	5 分	閉会、事務連絡

3.当日の様子

■講演の様子



【講演】家庭部門の脱炭素 前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学科専攻 准教授

■グループワークの様子



【グループワーク】脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討

ミッション① 太陽光発電設備の設置

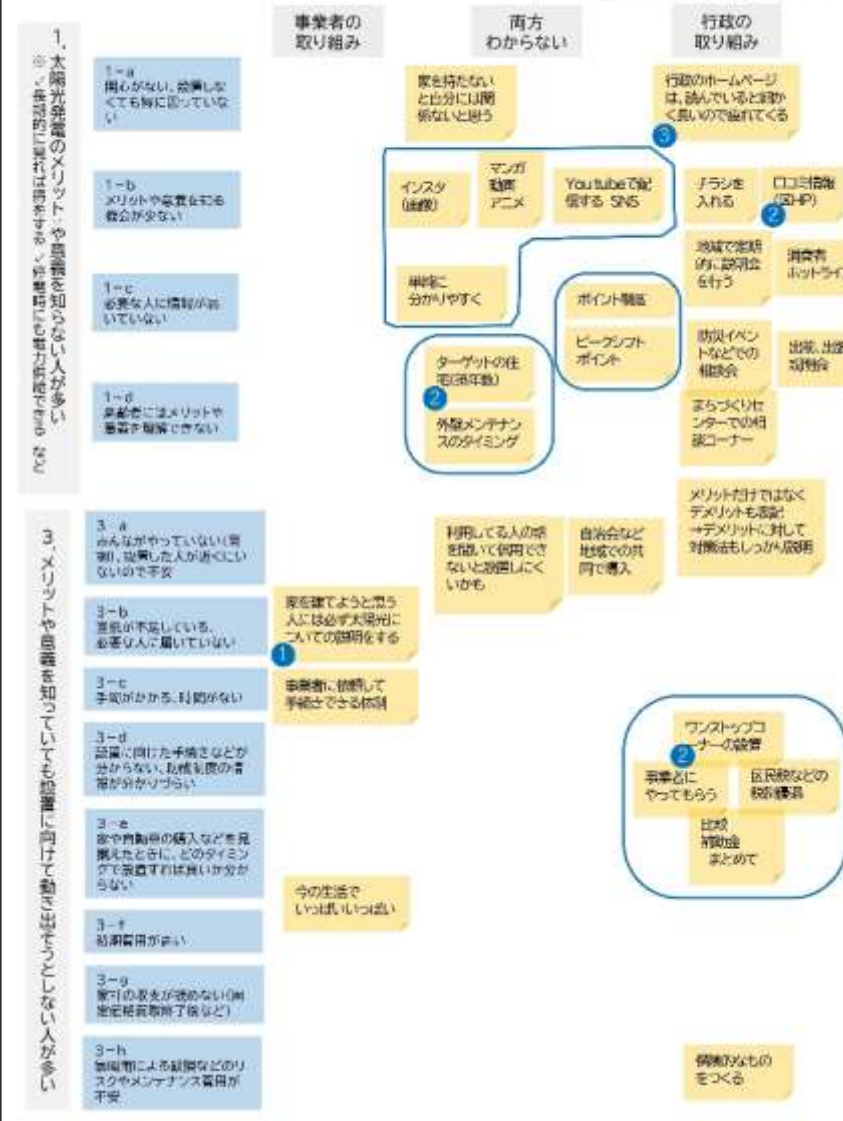


世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

●：シール投票の票数

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

太陽光発電 - 2グループ

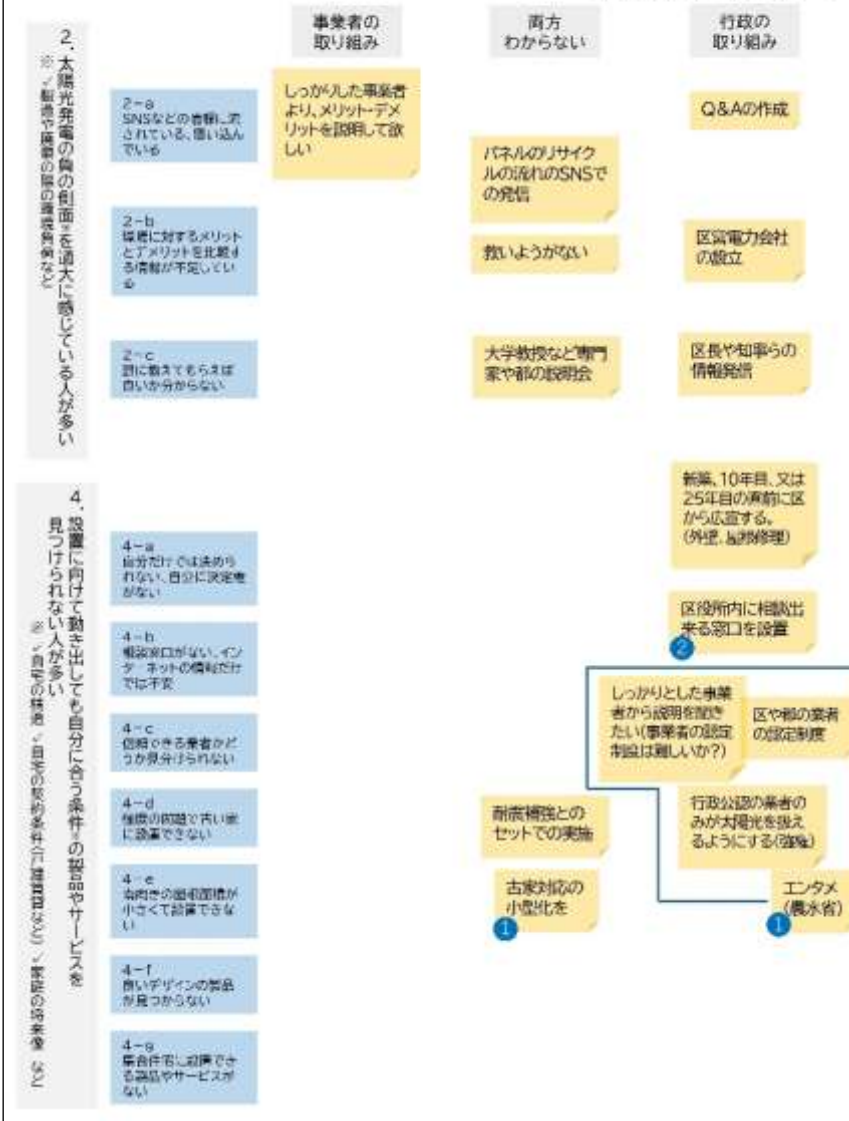


世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

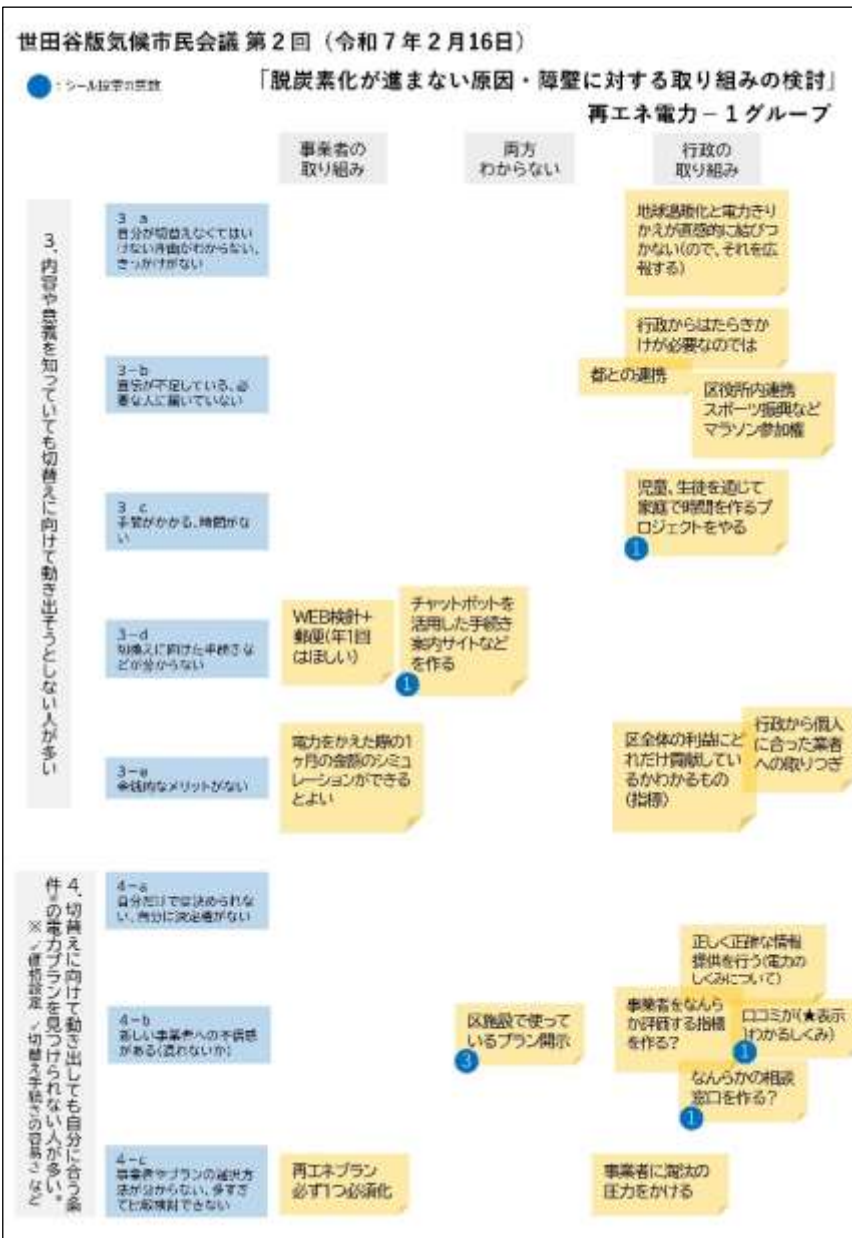
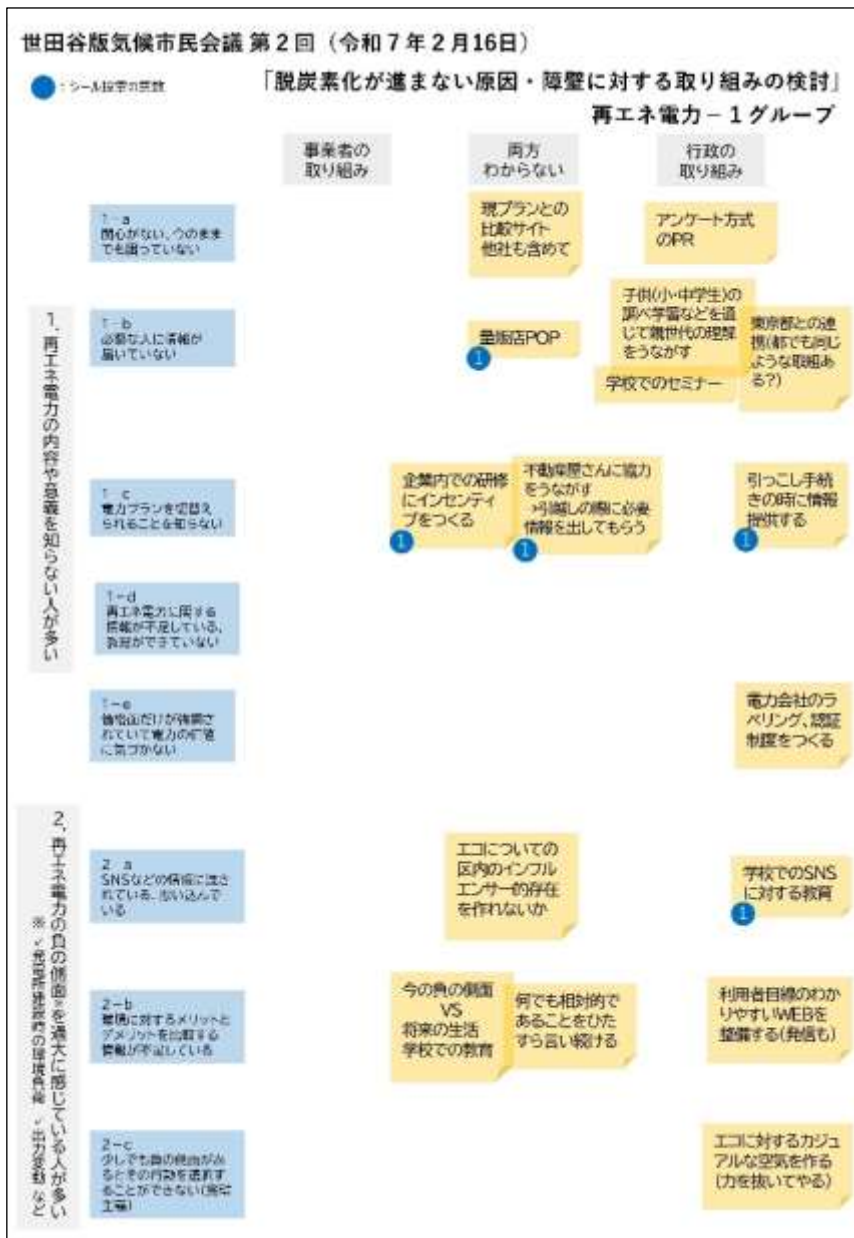
●：シール投票の票数

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

太陽光発電 - 2グループ



ミッション② 再生可能エネルギー電力への切替え

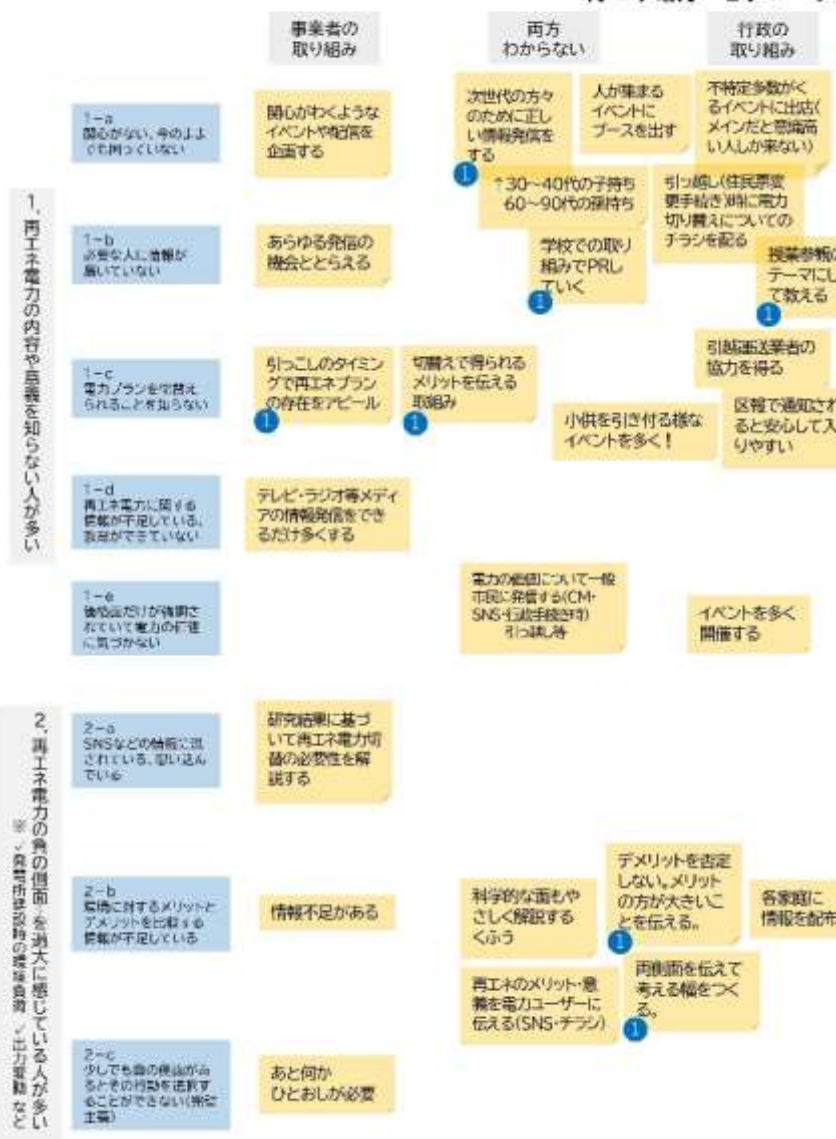


世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

1. シームレスの意識

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

再エネ電力 - 2グループ

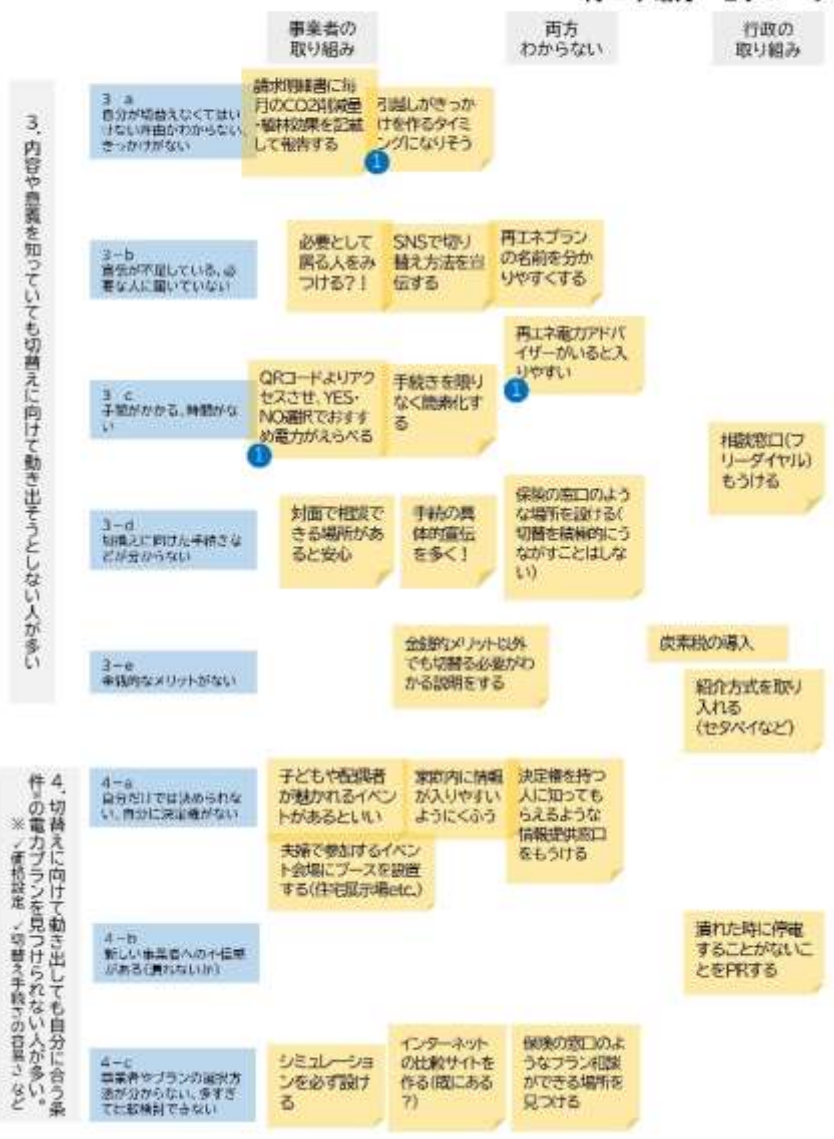


世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

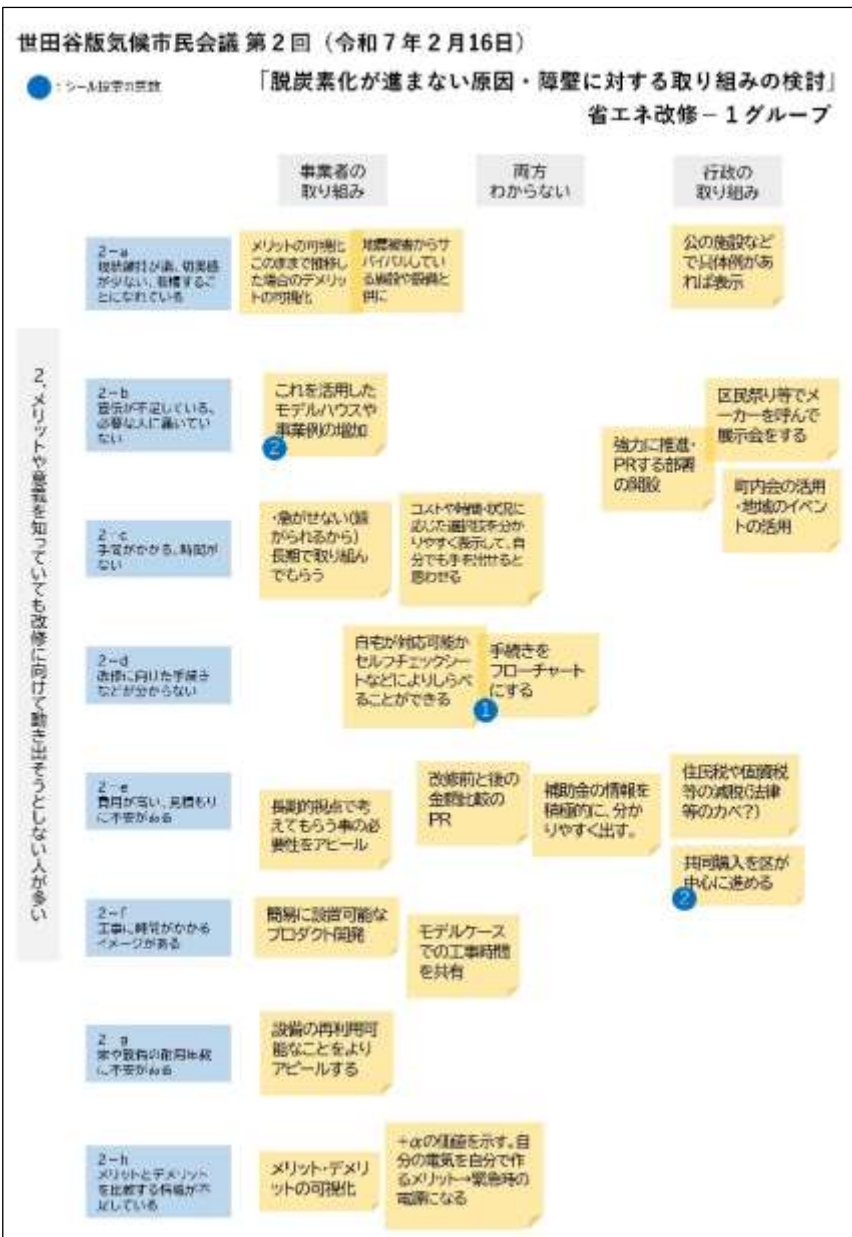
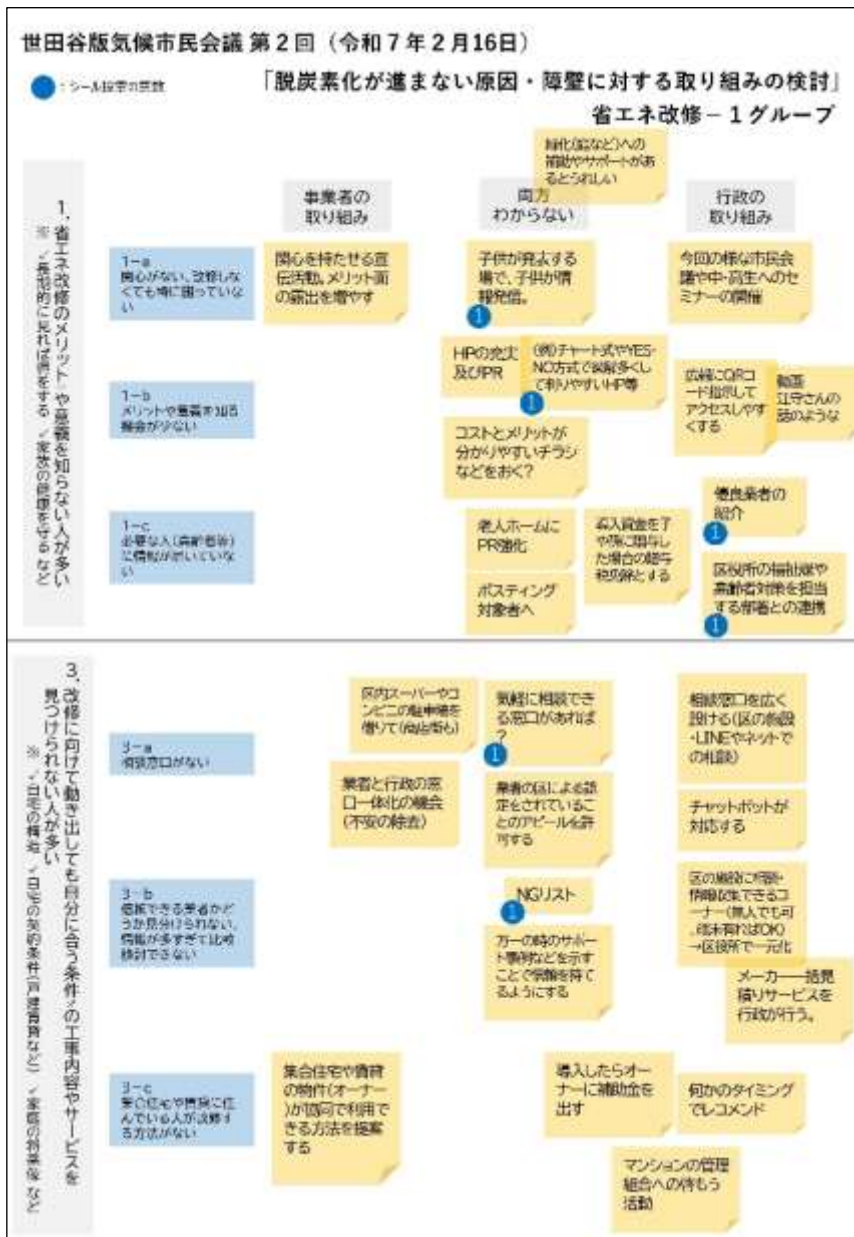
1. シームレスの意識

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

再エネ電力 - 2グループ



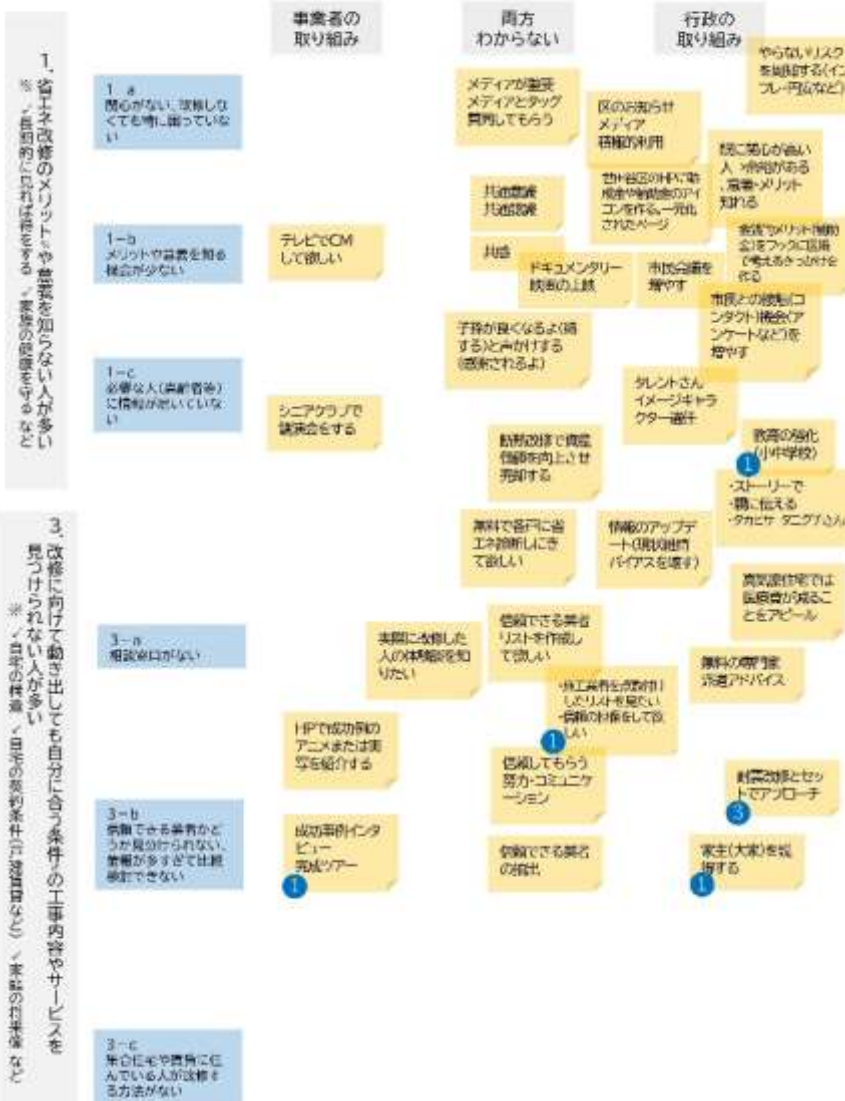
ミッション③ 住宅の省エネ改修



世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

1 シームレスの意識

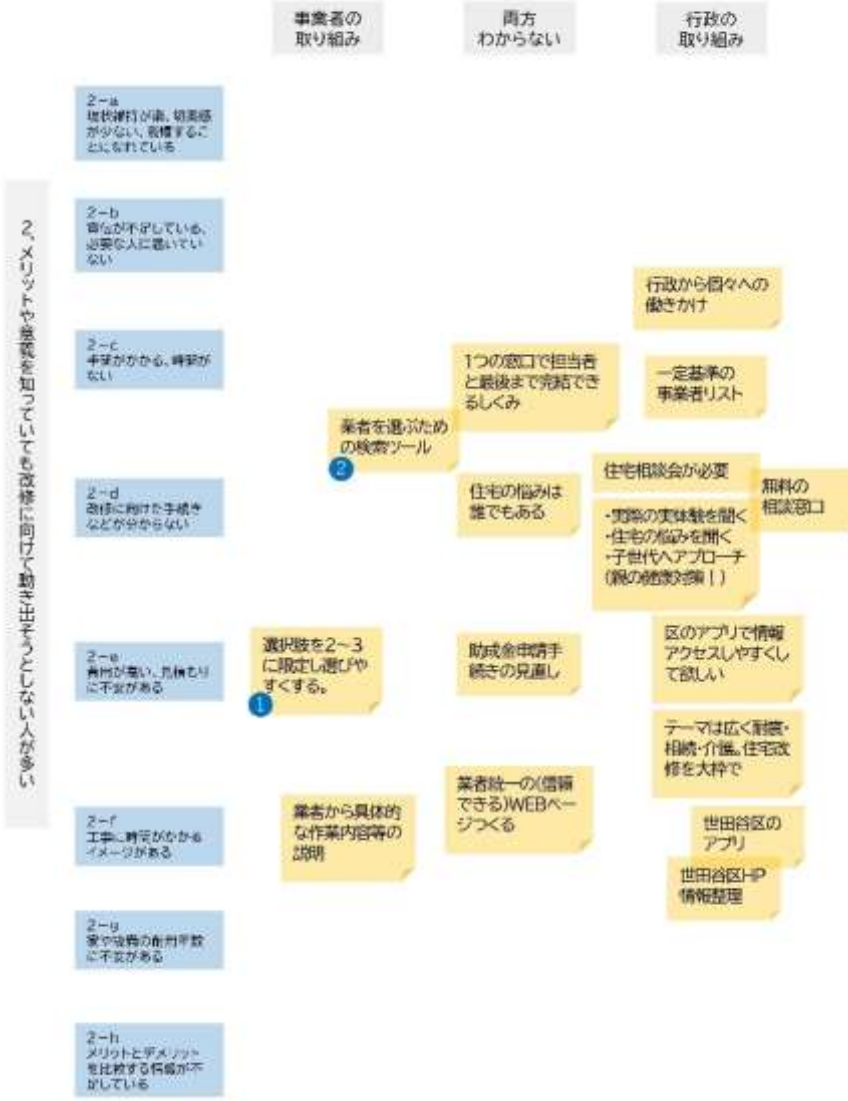
「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」
省エネ改修-2グループ



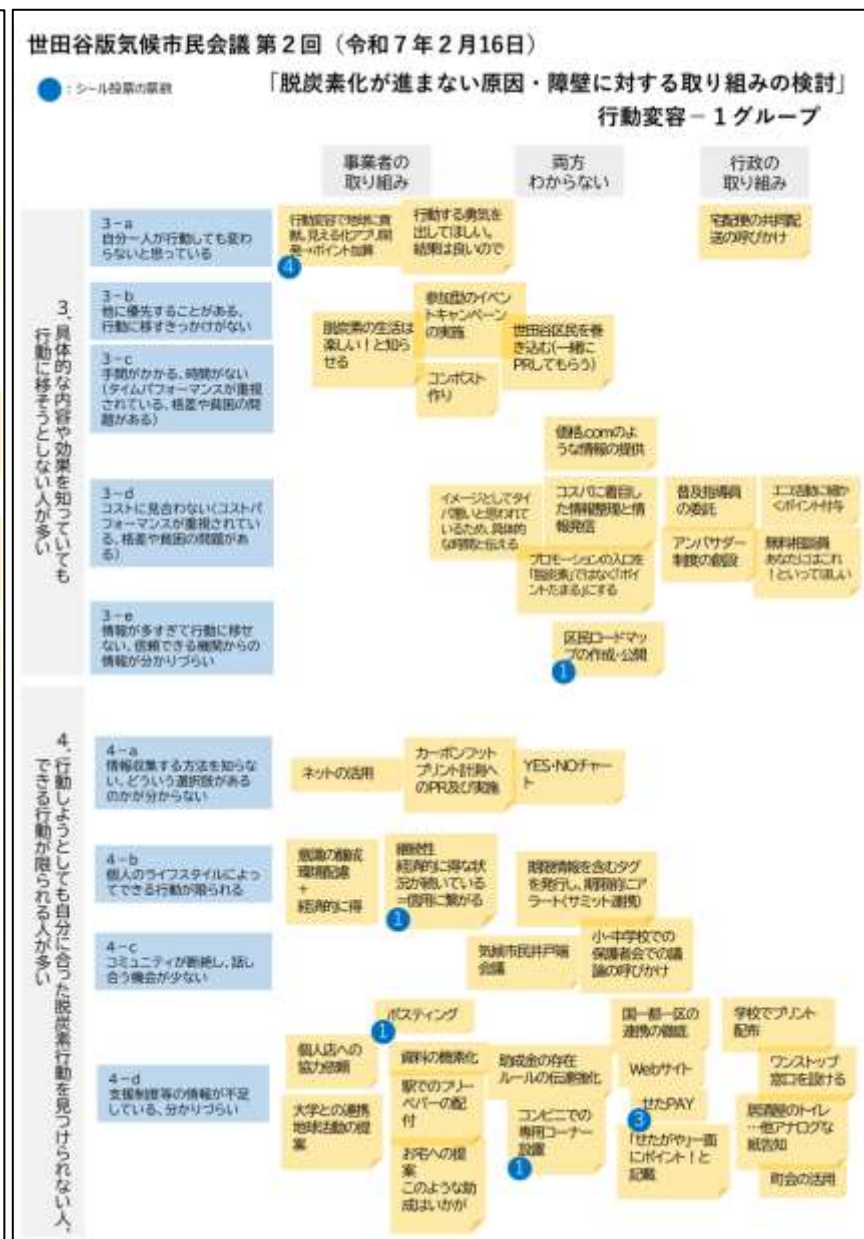
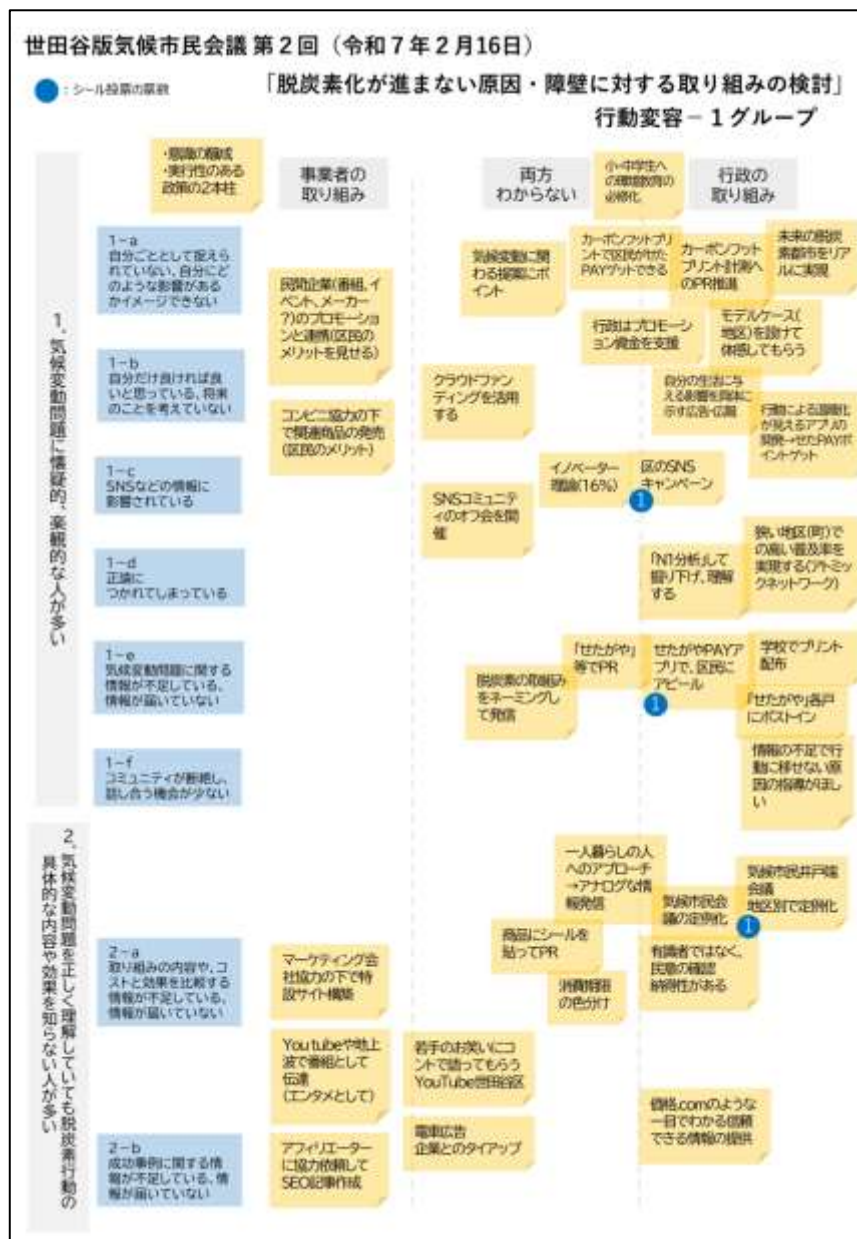
世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

1 シームレスの意識

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」
省エネ改修-2グループ



ミッション④ 脱炭素行動変容



世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

① シーン設定の意図

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

行動変容-2グループ

	事業者の 取り組み	両方 わからない	行政の 取り組み
1. 気候変動問題に積極的・柔軟的な人が多い	1-a 身近ごととして捉えられていない。自分などのような影響があるイメージがない	体験・経験・実感 できる場がほしい	自分の行動を振り返るシミュレーションで認識する(カーボンフットプリント)
	1-b 自分自身だけでは難しいと感じている。啓発のことを考えていない	楽しんでもできるようなアプリの開発	
	1-c SNSなどの情報に利用されている		SNSで正しい情報提供を行う
	1-d 正確につかえてしまっている	自分の目で確かめる場がほしい	意見が言いやすいローカルな場を設ける
	1-e 気候変動問題に関する情報が不足している。情報が届いていない		あくまでも行政が発信する情報イベントがある
	1-f コミュニティが弱体化し、話し合う機会が少ない	幅広い年代とつながれる場がほしい	小学校などの総合学習に地球温暖化対策などを入れる
2. 気候変動問題を正しく理解していても知らない人が多い	2-a 取り組みの内容や、コストと効果を比較する情報が不足している。情報が届いていない	様々なライフスタイルに対応した情報を公開する	民間企業と連携する場がある
	2-b 成功事例に関する具体的なメリットや数値が分からない	広報のターゲットを絞ってアピールする	行政から必要とされていると感じられるイベント

世田谷版気候市民会議 第2回（令和7年2月16日）

① シーン設定の意図

「脱炭素化が進まない原因・障壁に対する取り組みの検討」

行動変容-2グループ

	事業者の 取り組み	両方 わからない	行政の 取り組み
3. 具体的な内容や効果を知っている人も、行動に移そうとしない人が多い	3-a 自分一人が行動しても変えられないと思っている	団休で体験できる機会がない	
	3-b 付加価値があることがあっても、行動に移すきっかけがない	交通空白地域の解消	
	3-c 手頃がわかる、時間がない(タイムパフォーマンスが低いとされている。価格や商品の質が低い)	大層なことではなくハードルがとてもしつてを減らす	新築・リフォームなどに規制を含んだ助成金を出す(太陽光パネルの設置など)
	3-d コストに見合わない(コストパフォーマンスが低いとされている。価格や商品の質が低い)	GIVE&TAKE 互いにウィンウィンになる場がほしい	世田谷区の人を使うアプリとの連携(せたがやPay odokyu)
	3-e 情報が多すぎて行動に移せない。必要な情報から情報を分けてほしい	コストが安いところから良い行動については補助する	環境に良い企業とせたがやPay odokyuを連携
4. 行動しようとしても自分にとって脱炭素行動を身につけられない人	4-a 情報収集する方法を知らない。どういった道徳性があるのか分からない	美容とかの相乗効果がある	地域のFestivalなどに行政が参加してカーボンニュートラルなどについて知識を広める
	4-b 個人のライフスタイルによってできる行動が限られる	情報収集しようとする意識がなくても情報を得る機会を増やす(広告?)	あくまでも行政が情報を発信する(その中に企業)
	4-c コミュニティが弱体化し、話し合う機会が少ない	コストと質の重視する点でどれくらいわかるのか疑問が不明	地域のFestivalなどに行政が参加してカーボンニュートラルなどについて知識を広める
	4-d 支援制度等の情報が不足している。分かりづらい	ワークショッブを行う	あくまでも行政が情報を発信する(その中に企業)

5.参加者の感想

【講演に対する感想】

- ・ 前回、今回と非常に貴重なレクチャーありがとうございました。前回の質問にも明確に答えていただきありがとうございました。
- ・ 前回質問した内容に真摯に向き合いお答えくださった資料は大変勉強になりました。気候問題だけでなく、自分の今の暮らし、周りの家族の暮らしが本当に幸せなのか、また、今各々が考え、向き合う事はなんなのか、広い観点から学ぶ事の大切さを気付く機会を頂いたと感謝しています。前回よりも、より親しみやすく理解が深まるお話もとても良かったと思いました。この会議に参加した意味、今後自分の立場で出来ることを考えていきたいと思いました。
- ・ いやー、面白かった。前さんの知的格闘の歴史を聞きたいな。QA は、江守さんのも含めて、講義を深く理解するには必須でした。
- ・ 前さんのお話で環境対策は先延ばしにせずすぐに始めるべきだと思いました。

【その他の意見・感想など】

- ・ 本日も濃い話し合いが出来、有意義な時間でした。ありがとうございました
- ・ いつも分かりやすく会議の内容を整理いただきありがとうございます。次回は最後の参加となりますが、引き続きよろしくお願いいたします。
- ・ ゆとりをもってグループワークの話し合いが出来て良かった。
- ・ 前回より意見交換の時間が多くて良かったです。 具体的な話や質問など出来て有意義でした。
- ・ ありがとうございました。 グループの進行がとても良く、意見が出やすく進められて、楽しく参加させて頂いています。脱炭素化について多くの方に知って欲しいと強く感じています。脱炭素化の必要性が区民に届くよう区の働き掛けに期待しています。
- ・ 市民会議に参加し、意識が高まったのは間違いないと思います。 3回でゴールを皆で目指す方法はじっくりと考えることができ良いと思いました。 また、脱線しがちなディスカッションの場面ではファシリテーターの方が適切に軌道修正して、現在やるべき事にもどることも出来、最終な達成感や、意識が高まる事につながるのではないかと思います、全体的に前向きに参加させて頂きました。
- ・ 気候危機について知識が入った上でグループ議論の時間が今回は多かったので有意義だった。意外と？今の時代にリアルコミュニケーション(直接対話)の場は貴重であり、必要なのかなと思った。ぜひこのような場作りを継続して行ってほしい。
- ・ グループワークで自分では考えられなかった事が出て、その内容を話し合うのが楽しかったです。
- ・ 貴重な会議なので、区や都、さらに国を突き動かすようなより尖った提言につながる会の活発な運営を期待しています。